

令和3年度 第1回徳島県総合教育会議 議事録

日時：令和3年9月3日(金)10:30～11:20

場所：県庁9階 教育委員室

1 開会

(司会進行)

<福岡課長>

本日は、お忙しいところご参加いただき、ありがとうございます。

ただ今から、令和3年度第1回「徳島県総合教育会議」を開催いたします。

本来でありますと、ご出席いただいております皆様方をご紹介させていただくところでございますが、時間の都合によりまして、お配りしております名簿と配席図でのご紹介とさせていただきます。

それでは、まずはじめに、飯泉知事よりご挨拶を申し上げます。

(あいさつ)

<飯泉知事>

まずは各教育委員の皆様方には大変お忙しい中こうしてリモート、教育長さんはリアルでということではありますが、ご出席をいただきまして誠にありがとうございます。

また、日頃から本県の教育行政にあたりまして、様々なご提言頂いておりますこと、あわせて感謝申し上げます。本当にありがとうございます。

さて、今、日本は第5波、最大の波これに対峙しているところであります。その意味では、なかなか先の見えない中、新学期がスタートをした、家庭内感染から学校への感染、全国で授業がどうあるべきか、また、部活動どうあるべきか、大変な状況が続いているところでもあります。

そういう中でもやはりこの教育、何としても子どもさん達の学び、しっかりと保障するだけではなく、教育現場が楽しいものに、そしてチャレンジ精神旺盛なものにしていく必要があるであろうと、その意味ではもう、一昨年となるわけではありますが、当時の安倍総理に対し、11月、政府主催の全国知事会議、この場におきまして、OECD諸国日本を除く国は、1人1台端末これが実際に行われていたわけではありますが、当時日本は、3人に1台、OECD諸国では、最下位になっていたところであります。文部科学省がいくら財務省に予算を要求してもなかなか認めてもらえない、何とかならないだろうか、知事会の方に、文部科学省の幹部がお越しになられ、これはまずいよねということで、私の方から直接安倍総理に申し上げ、1人1台端末、今こそ必要なのではないかと、このように申し上げたところ、ただちに安倍総理の方からじゃあやろうではないか。

そして年が明け、コロナ禍となり、全国一斉休業、学びの保障の問題が大きな課題となり、この1人1台端末、GIGAスクール構想、これをより加速をしていくことによって、大きく様変わりしていくことといたしたところであります。

こうした、GIGAスクール構想につきましても、徳島におきましてはいうまでもなく、

光ブロードバンド環境ということもありました。こちらにつきましては高等学校まで、そして公立私立を問わず、また、特別支援学校につきましても対応をさせていただいているところであります。

またもう1つ、大きな教育界での改革といたしまして、コロナ禍となり、特に義務教育、小学校・中学校、教室が密になり、新しい生活様式に則るソーシャルディスタンス、これがなかなか教育現場でとれない。35人以下学級に中学3年まですることは出来ないだろうか。全国市長会、全国町村会、強く文部科学省に申し上げたところではありますが、こちらも財務省の大きな壁が立ちはだかりました。

ここは、公明党の皆さん方にも、お願いをする形をとらせていただくとともに、彼らが私のところへ参りまして、全国知事会としても、ここは是非なんとか地方をあげて、国に対して提言をいただけないかと、まずは公明党の皆様方に、そして共に頑張っていこうではないか。

そして、こちらは、国地方協議の場、地方6団体のトップと、そしてこれは菅総理になってからであります。菅総理に対し、地方6団体の総意といたしまして、この小学校2年以降の35人以下学級、そしてコロナ対策というだけではなく、こちらも学びの保障、あるいはより充実した個の教育の保障といった観点で、必要になるのではないだろうか、GIGAスクールをより効果的にするためにもこれは必要ではないか、こうした点を申し上げたところ、菅総理の方からじゃあまずは小学校6年まで、年次進行で行おうではないか、ということで、実はこれが40年ぶりの義務教育標準法改正、こうなりまして、今年度は小学校2年、来年は3年、以下どんどんという形で、小学校6年までになったところがあります。

ただ教育関係者の皆さん方は既にご存じのように、徳島県は、国が小学校1年をやる、年次進行でやっていくんだ、こうした方針が述べられておりまして、その後出来なかったわけなんです。年次進行で加配定数を活用して、そして中学3年までもう既に35人以下学級になってるんですね。

しかし加配定数、これは所詮は予算ということですので、これで雇われた先生方は、実は正規ではなく臨時教員ということになります。4、5年経って、ようやく正規が空く。先生どうでしょうか、このように申し上げたところ、いやーもうちょっと早ければ、大阪、兵庫から呼ばれてそちらにOKしちゃいました。若き中核人材が、他県に流出をしよう、こうした現象が実はあったところでありました。

今回のこの義務教育標準法、40年ぶりの改正によりまして毎年徳島では正規の教員の数が増えてくる、そして加配のその部分が浮いてくる、ということがありますので、DX、GX、世界的な未来技術、こうしたものに長けた皆さま方を、この枠によって確保することができる、まさに新たな局面に我々としては今立ち向かおうとしているところでありませぬ。どうか教育委員の皆様方におかれまして、コロナ禍ではありますが、出口のないトンネルはありませんし、明けない夜はないわけでありませぬので、アフターコロナ、これを今のうちからしっかりと見据えた、徳島教育の在り方について大所高所からご提言いただきますようによろしくお願いを申し上げまして、私からのまずはご挨拶とさせていただきます。本日はどうぞよろしくお願いたします。

<福岡課長>

それでは議事に移ってまいります。これからの議事進行につきましては、飯泉知事をお願いいたします。

2 議事

(進行)

<飯泉知事>

それでは、次第に従いまして、議事を進めてまいります。

まずは事務局から、「『新しい時代の学び』に向けた教育行政の展開について」を説明させていただき、その後、意見交換に移りたいと存じます。

それでは、事務局からの説明をよろしくお願いたします。

(1)「新しい時代の学び」に向けた教育行政の展開について
(事務局より「資料1」により概要説明)

(2) 意見交換

<飯泉知事>

それでは、議事の(2)「意見交換」に移って参ります。

意見交換については、事務局から説明がありました「新しい時代の学び」に向けた教育行政の展開等について、ご意見等を頂きたいと考えておりますので、よろしくお願いたします。

まず、河野委員さんから、以降、三木委員さん、島委員さん、菊池委員さん、河口委員さん、**榊**教育長さんの順でお願いいたします。

それでは、河野委員さん、よろしくお願いたします。

<河野委員>

おはようございます。よろしくお願いたします。

初めてのこういう会議で、非常に緊張しているんですけども、色々徳島県が取り組まれている新しい時代の学びということで、非常に全国的にも先立ってやっているし、色々いいなと思いましたが、GIGAスクールの件なんですけども、ほとんどの学校が活用できている状況。県立学校では100%、市町村でも非常に高い活用率があると思うんですけども、じゃあ実際に子ども達がどう活用できるのかというところ、目指している段階っていいですかね、レベルっていうのはどのようなとこまでいったら、活用しているのかというのがちょっと、まだ私も実際わかってないんですけど、各小中高においても、曖昧なところがあるのではないかという気がしております。

特にWITHコロナ時代の学びの保障という点で、学校が休校になった際なんかに、非常に有効に活用できると思いますので、一旦家にタブレットとか端末を持ち帰ってそれできちんと使えるのかというのを、どんどん各学校でも実際やられていると思うんですけども、モデル的にどんどん実施して、いざという時には、すぐに活用できるような状況にさせていただけたらと思います。

また、色々なサポート体制も充実しているということで、いろんな先生方の良いモデルを広く県内教員に提示してあげて、じゃあこれだったら使えるかなって、それぞれ得意不得意ありますけれども、これだったら自分でも使えるかなという程度までやって、どんどんいろんな教員が使っていれば非常に有効な物なので、いいかなと思っております。

今後も有効利用していただけたらと思いますので、サポートを含めてよろしくお願ひしたいなと思っております。短いですが以上です。

<知事>

はい、ありがとうございます。

大変重要な点で、その目標としているところですよ、現に使われていると。

こうした点については、後でまとめて事務局の方からお話をいただければと思います。

ありがとうございました。

それでは次に三木委員さん、よろしくお願ひします。

<三木委員>

はい。まず始めに全国知事会会長の任期が昨日で終えられたと伺っております。本当にお疲れ様でございます。

このコロナの中で先を見据える力の重大さというのを改めてすごく実感しているところです。知事をご提案されていたG I G Aスクール構想徳島モデルが、全国で展開されていくことを本当に願っております。今後も更なる展開を、是非ご指導いただけるように本当に心から願っておりますので、どうぞよろしくお願ひいたします。

やっぱり色々あると思うんですけども、1人1台端末でやることによって具体的にどんなことが出来るのかということで1つ思ったのが、この間、アップデート・コンテストとかでもあったように、徳島県内の地域と地域をつなげるということで、今移動が難しい時代にせっかくなので、このタブレットとかを使って、例えばA校で地域に根ざした授業とかが行われている時に、B校の生徒がそれを視聴する、視聴することによって、疑問に思ったこと、知らないことをA校の生徒にぶつけることによって、その説明をすることで更なる理解があるとともに、知らなかったことをまた気づかされるとかということが、あると思うんです。

そういうようなやりとりをすることで、地域に根ざす、徳島県に深みをもたせる、子ども達に理解をもたせるという1つの方法があるのではないかなと思ひました。

成人年齢の引き下げについてはですね、やっぱり1番色んなことがあるんですけど、大事なことの中で、政治への興味を持ってもらうということが、ものすごくこれから今の自分達の生活に直結して、未来に直結しているってということで本当に重要なことだと思うんですけども、高校生だったりするとあまりそこにまだピンときてない、ということが多いのではないかなと思ひまして、模擬選挙っていうのがありましたけれども、模擬ではなく実際に地域の人の色んなことを聞いて、地域との関わりということで、何が問題かということ聞き取るとともに、高校生の視点を入れ、地元の議員に協力を仰いで、本当に要望を議会に提出するっていうのをしてみてもいいのではないかなと思ひました。

提出した時の議会に、本当に参加して、傍聴席にでもいいんですけど行って、そういうことに対して地元の議員に質問してもらって、質問してもらったことをその長が答えてくれるってことで、それが取り入れられることになるか、棄却されることになるか、そういうことも、どういった経緯でなっていくかというのを実際に体感することによって、ものすごく刺激になるし、こうすることで、自分達の今の生活が成り立っているんだっていうことを実感することで、政治への興味を持って今後の、より自分達の暮らし、地域の暮らし、国の暮らし、世界の暮らし、そういうものに結びついていくんじゃないかと思えますので、そんなことも、もしできる機会があったら是非やっていただけたらいいんじゃないかなと思いました。以上です。

<知事>

ありがとうございます。

大きく2ついただきました、GIGAスクール、どちらかというと生徒さん達、教育現場での横横展開、新たな場面を作ったらどうだろうかと大変素晴らしいご提案をいただきました。

また第2点は、成年年齢引き下げ、ここに向けてのやはり若い世代の皆さん方に、政治に関心を持って頂くということでね、やはり模擬では駄目だろうと、実践で、実装でやってみるといことの方がより体感を得られるということで、具体的に議員さん達とともに行動をし、生徒さん達のアイデアといったものが、どのような政治的なプロセスを経て、具現化をされていくのか、こうしたものを体験させていくことによって、より実感を持って、そして、主権者教育、これが増していくんじゃないかのご提案になります。

確かに大学生なんかになりますと、逆に国会議員さん達のそうしたところの事務所に、いわゆるインターンシップとして、秘書役をする、あるいは企業の社長の靴持ちをするとかですね、様々なインターンシップがあるわけなんですけど、まだまだ、なかなか高校生以下については、成年年齢が引き下げられていませんので、参政権は今18歳まで下がってるんですけどね。

こうしたことがありましたので、今後成年年齢が引き下げられるということを受けて、やはりそうした意味の新たな主権者教育から、インターンシップ的なものも含め、実践をもって、そしてこれによって政治、行政に関心を持っていただく大変重要な提案だと思いますので、こちらは教育委員会の方でもしっかりと取り組みを考えていってください。

どうもありがとうございました。

それでは次に島委員さん、よろしく申し上げます。

<島委員>

島でございます。よろしくお願ひいたします。知事、本当に全国知事会会長の重任お疲れ様でございました。

我々民間の立場から、今の教育にどういった人材が求められているかということ、提言していくようなことが役割だという風に思っていますので、ちょっとお話をさせていただきます。

最近歯医者さんだとですね、口腔内スキャナーっていうのがありまして、口の中を立体で撮れちゃうものです。これなんかは多くの写真を撮って貼り付けて立体化させますから、高度なプログラミングがやっぱり大事なんですよね。ですから、残念ながら日本製あんまり強くありませんので、プログラミング教育っていうのが大事かなと思ってます。

ものづくりにおいても、データで飛んできて、パソコン上でデザインしちゃうというのもありますし、立体造形などは3Dプリンタでやると、ものづくりが非常に変わってきているということですね。そしてこの差し歯のデザインなんかも周りの歯の状況から、AIで導き出すっていうのが結構出てきてます。これも残念ながら外国製です。

我々もAIの基本とか、ディープラーニングとはなんぞやとかですね。そういったことを習ったことがありませんので、非常に戸惑うところがございますので、やはりこのプログラミングだったり、新しいものづくりの3Dプリンタだったり、AIだったり、基本っていうのはやはり学んでおくといいのかなと思いますし、今の子ども達が社会に出た時には、もっともっと実装化されてるように思いますね。

コロナ禍において、我々の社員教育とかもかなり変わっております。今まででしたら全国26か所の営業所に、よく分かった人間が行ってリアルで説明しておりましたけれども、最近は今のような形式で、Zoomで資料を皆さんで共有して教育すると、ものすごい効率が上がったなと思ってます。

そして仕事の都合でいなかった人、ちょっと理解が進まなかった人は、アーカイブ化ですね。YouTubeとかに載せておけますので、後でじっくり見てねと、もし質問があったら後でメールか何かで出してねと、というようなことができますので、非常に社員教育に与える影響大きかったなと、コロナが始まってからのこの1年半で、会社の教育の在り方がだいぶ変わったのではないかなと、これは弊社のみならずだと思います。

やっぱりそういったことを積極的にやっている組織と、やっていない組織との差っていうのは非常についたなと思いますし、失敗はありつつも、やはりやってみることが大事かなと思いますね。やってみたら必ずうまくいきますので。

あと、先生とのやりとりも、今まではなかなか徳島の歯科技工士が東京の先生の所に行くっていうのはなかなか難しかったんですけども、今はもう、Zoomを使える方々が普通ですので、この模型を間にして、先生どうしましょうかっていうようなことをZoomでやりとりできるようになってきてます。医療の世界でも、非常に活用が進んでいるように思います。

あと、外国の方々とのやりとりもZoomの活用で非常に、今まででしたら現地に行って打ち合わせっていうのも多かったんですけども、しやすくなったように思っています。

そのうち、Zoomで商談したら自動翻訳なんかがついてくれたら有難いなとは思ってますけどもね。

ただこの方々、インドネシアの方なんですけど、中華系の方なので英語と中国語とインドネシア語の3つ出来ましてね、どれがいいとかって言われるんですけど、英語で勘弁してくださいみたいなやりとりもあるんですけど。やっぱりこれから国際化の時代においてはね、使える英語っていうのは去年も申し上げましたけど、大事だと思います。外国の方と仲良くなるってことがこれから必要かなと思います。外国の方とZoomとか使えばコストもかけずに、割とコミュニケーションしやすいので、そういう場に慣れて度胸をつけるって

というのが大事なかなと思いますね。

最後になんですけど、今こういった時代において、コロナ禍で加速したDXの流れに対して、自分達が何が出来るかなんていうことを結構若手社員でね、協議してもらってます。

今日私がお話しているのも、若手の社員が作りあげてきたものをスライドにまとめて発表させていただいているだけです。これからやっぱり時代も色々変わってきますので、こういったリモートを使ってですね、答えのない課題に対して、こういうことやったらいいんじゃないかなんていうことを、リモートの力を使ってまとめていくっていう、そういったことが非常に大事なかなと思っております。以上でございます。

<知事>

島委員さんありがとうございました。

今、大きく2点いただきました。教育現場で、確かに小学校からプログラミング教育、こうしたものを行っているわけなんですけど、やはりもっともっとそうしたものの精度を上げていく、また実践に使っていくといった点。

またAIの技術、さらには3Dプリンタ、これはもう技工士の世界では当然のことと今お話も頂きました。こうした、要はIoTビッグデータ、AI、ロボットと、こうした未来技術、いわゆるSociety5.0、これはもう当たり前のように実用の世界では行われている、これに合った人材をどのようにということ、これはまさに教育の現場に求められる視点ということをいただきました。

それからもう1点は、このコロナ禍、ピンチをチャンスにということ、なかなか対人接触これが難しい、Zoomなどを使ってのテレビ会議など、こうしたことによって、新たな実はチャンスが芽生えてくる、海外のお話もいただいたところでもあります。

あるいは社員教育にこれをデジタルアーカイブスとして、なかなかそうした分野、苦手、あるいはZoomは初体験、こうした皆さん方が、ベテランの皆さん方、あるいは優れた皆さん方のやりとりといったものをリモート、あるいはアーカイブで見ることができて学習することができる。

こうした点についてもSociety5.0時代の新たな社員教育の在り方、こうした点もいただいたところでもあります。今、島委員さんから頂いた点、まさにどれもこれも企業が求める人材、大きく様変わりをしているところでもありますので、こうした点についても実践教育、あるいは実用教育といいますか、こうした点で教育委員会としてもしっかりと取り組み、進めて頂ければと思います。ありがとうございました。

それでは、次に菊池委員さん、よろしく願いいたします。

<菊池委員>

はい、菊池です。よろしく申し上げます。

私の方からは資料に基づいてお話ししたいんですけども、3番の教員への支援、1人1台端末が、もう既に全部出揃って100%というようなお話がありましたので、各学校の取り組みそれぞれが、先立って既にスタートしているところ、それからよーいどんのところがあったりするというようなことも、考えられるんですけども、教員への支援という

ことで、GIGAヘルプデスクであったり、サポーターであったり、ICTの支援員だったり、そういった部分をフルに活用していただいでですね、学校間格差が生じないような流れを、取り組みをしていただけるようお願い出来たらなと思っております。

もう既に学事視察等で、小学校であったり、高校であったり、パソコンの導入にあわせた授業を拝見させていただいてるんですけども、非常に皆さん、自分の体の一部になったような扱いが既にされているというようなところが見受けられますので、これに関しては後々の先生等々の努力によって、またこれがさらに進化していくのかなという風に思います。

もう1点は、先日、中学校の教員採用試験の2次面接をさせていただいた時に、1人の応募の先生の方からのお話で、是非ともしらさぎ中学校で授業をしてみたいというようなお話が出まして、ああこういう考え方もあるんだなということで、しらさぎ中学校のホームページを拝見させていただいて、80歳以上の方が5名おいでになるっていうような内容だったものですから、そういった方にも当然需要があるんだろうというようなことを考えると、県西部であったり、県南部であったり、そういった方々の需要が、もし掘り起こされるのであれば、当然ネット環境の問題等々で、通信的な教育であったり、出来たら昼間、年配であると夜間になかなか出歩けるかというか、就寝時間のことを考えると、夜間なかなか難しいという方もおいでになるかなという風に思ったりもするものですから、そういった部分も、かえって進むような方向性というの、将来的に考えていただけたらどうかという風には思っております。以上でございます。

<知事>

ありがとうございます。

菊池委員さんからは教職員の皆さん方、その実用であったりその考え方、こうした実態に沿う形でお話を頂き、特にこの中でも、全国初となる県立の夜間中学校しらさぎ中学校であります、80歳以上の方々が5名おられる、県西部などであれば通って来るよりも、例えばZoomなどを活用する、こうしたことも今後考えたらいいのではないかと、夜間中学校、その在り方についても頂いたところであります。

こうしたところ、ご本人達が、場合によっては、若い皆さん方、海外の皆さん方と、接したいというご希望もあるかもしれませんし、しかし、やっぱりちょっと毎回行くのはせこいなという場合であれば、確かに、Zoomなどを活用する、テレビ会議システムを使うということも、これあり、ということでもありますので、まだ県立夜間中学校しらさぎ中学校、全国初スタートを切ったばかりでありますので、教育委員の皆様方の様々なお声、あるいは今は、教職員の皆さん方のお声の代弁をして頂いたところであります。

こうしたものをしっかりと咀嚼をさせていただき、進化するしらさぎ中学校となっていていただければと思いますので、教育委員会の方でもよろしくお願いを致したいと存じます。

それでは次に、河口委員さんよろしくお願ひ致します。

<河口委員>

河口でございます。どうぞよろしくお願ひいたします。

先日、全国の学力調査の結果が出ましたけれども、前回よりも徳島県は向上しているということで、これは児童生徒、また、教員の教育への熱意の賜物だと大変心強く感じました。

今回の新しい時代の学びに向けた展開ということで、スピード感。また、予想される課題について、知事が県独自政策として、小中高一貫した教育への展開ということで、高等学校、特別支援学校、また私立学校への1人1台端末を配置していただけたこと、そして活用状況としては100%活用されていると、これは非常に心強いことです。

今現在、感染拡大というのが急速に広がってきておりますが、その中でこういったことが学びの保障に大きく貢献できるのではないかと感じております。

今、命と学びの保障、ということで、学びの選択肢とか、教育環境等で、実に教員の負担は増大するのではないかと心配しているのですが、今、徳島県では「徳島県GIGAスクール構想」、「GIGA・とくしま学び通信」等で、授業のICT活用をする参考資料として情報公開がなされています。

このような情報、資料の展開により先生方は非常に心強く授業に打ち込んでいくことができ、新しい授業構想が出来ていると思います。

今後こういった現場の先生方の立場に寄り添った場合に、教職員相互の円滑な情報交換の必要性とか、また、そういったことについて、より効果的な実践が必要ではないかと考えています。

その対応として、例えば「STOAK」等を用いて現場の教職員が共有することで、一層の進展とか負担軽減に繋がるのではないかと考えております。

もう1点は市町村間の取り組みの平準化が今必要ではないか、そういったことによって、この今の取り組みがずいぶんと効果的になるのではないかと思います。

市町村によっては、iPadの「Classroom」とか、「Schoolwork」、そういったものを活用、無償のサービスということなんですが、そういったものを可及的に、速やかに取り入れている市町村と、まだそれができていない市町村もあると聞いております。そういった市町村に対する平準化によって、より今のこういった教育、授業、そういったものに対して効果的に取り組まれるのではないかなと考えております。

また、ICT支援員のことですが、もちろん、ICT支援員は各市町村の雇用であるため、ICT支援員による支援活動によって、少し隔たりができていますと聞いております。そこで県が主導して、ICT支援員に対して必要なスキルとか、学校での動き、活動、どういう風にサポートしていったらいいのか、そういった研修を行ったりして、ICT支援員の方の活躍、活動を発展させていったらいいのではないかなと考えております。

最後になりますけれども、私2年間エシカル甲子園に参加させていただきました。

高校生の主体的で積極的な社会参加を目の当たりにして本当に心強い感じを持ちました。消費者教育の推進、地域での課題、探究。これからの社会を私達がつくる、まさにその姿勢が、高校生の発表から感じられました。

そういったこのエシカル甲子園という素晴らしいこの取り組みを、今後より一層推進していただき、それを小学校中学校にも配信し、小中高合わせたそういった活動ができるこ

とを期待します。こうした高校生の今の取り組み、大変力強く思っておりますので、主役となる高校生、今後より一層応援していきたい気持ちでいっぱいでございます。以上です。

<知事>

ありがとうございます。

まず、冒頭に学生のお話をいただきまして、中学校が一桁ということで、今回良い成績をあげていただいたところでありました。これからもこうした流れといったものを、中学校、そして小学校、こうしたところでどんどん進めて頂ければと思います。

また、G I G Aスクール、この活用等についても多くのお話を頂きました。教職員の皆さん方の情報交換のツールであったり、あるいは負担軽減、こうしたものにつなげていけばよりよいのではないかと、また市町村の取り組み、紹介をされるといい意味での横展開をはかることが出来るということもあるかと思いますので、貴重な提言本当にありがとうございます。

またICT、こちらにつきまして支援員のお話もいただきました。

こちらについてはやはり、スキルアップを行っていくことが市町村における様々なICT教育の向上につながるということで、県で主導すべきものは主導すべきであると頂いたところでもあります。

またエシカル甲子園、2年間ご覧をいただき本当にありがとうございます。

非常にこの高校生、エシカルに対してはセンシビリティが高い、そしてその後大学生に引き継がれるということでもありますので、世界的にも注目いただいているところでもありますから、しっかりと消費者庁新未来創造戦略本部、そして国際機関が、この徳島県庁10階にあるわけでもありますので、しっかりと連携をし、まさに成年年齢引き下げ18歳、その消費者教育、世界的な課題ともなっているところでもありますので、しっかりと取り組みを進めていけるように、ここは知事部局としても、教育委員会の皆さん方と連携をさせていただければと思います。ありがとうございます。

それでは最後に総括も含めて、榊教育長さんよろしくお願い致します。

<榊教育長>

教育委員の皆様方、G I G Aスクール、高校生の社会参画につきまして、様々な御意見、御提案を頂きありがとうございました。

お話を聞く中で、G I G Aスクール等については、委員の皆様方だけでなく、子どもたち、保護者、県民の皆様への期待がものすごく高いと。G I G Aスクールを通して、何が変わっていくんだろう。子どもたちはどんな力がついていくんだろう、どうやって新しい社会が作られていくんだろうというようなことをいろんな人が心配して思い描いていると思います。

本県は徳島県G I G Aスクール構想の推進本部をつくりまして、定期的に会議を持っております。その中で皆さんがご心配になっておられる、活用とかサポートについて話をしているところがございます。

一番最初に、学校とかの教員のレベルがどうなのかと、子どもたちの学習レベルはと、話もあったんですけど、ちょうど先日、小中高、特別支援学校を含めまして、それぞれの学校種に応じた子どもたちの活用レベルについて、各部会で決めたものをお示したところでございます。

サポートにつきましては、やはり学力格差とか、学校間格差、個人格差が出ないように、活用について、サポートについて検討しているところでございます。学んだことを何に活かしていくのか、どうやって活かしていくのかというのを、これからは形にしていく必要があると考えております。

冒頭知事からお話があったんですが、学びの保障プラス教育を楽しむものとし、子どもたちがチャレンジしていくものにする。GIGAスクールというツールを使って、子どもたちの学びを深めていくということを最優先に教育委員会は考えていきたいと考えています。

様々これから気になることも出てくるかと思いますが、忌憚のない意見を頂きまして、とにかくチャレンジを今年はする年であると考えておりますので、しっかりと前を向いてやっていきたいと考えております。以上でございます。

飯泉知事（総括）

どうもありがとうございます。

今、**榊**教育長の方から総括いただいたところではありますが、今日のテーマとしては、大きな大テーマ、「新しい時代の学び」とさせていただきます。

やはりそうなりますと、時代はこのコロナ禍ということもあって、リモート、GIGAスクール、これをどう駆使をしていくのか、教育委員さんから多くのご提言いただきましたし、さらにこれを進めて教職員の皆さん方の待遇改善であったり、あるいは産業界が求める人材、そのあり方、Society5.0、この時代のあり方についてもご提言をいただきました。

また更には、成年年齢の引き下げがもう来年、年が明けると4月から迫ってきているところでありまして、これを前提として、ともすると10代は子どもさんたちをどう守るのかということが多かったわけではありますが、そうではなくて積極的に打って出る、例えば主権者教育、こうした中でやはり子どもさん達も主権者になって何が変わるのか、いくら授業で、耳学校で聞いても実感がわからない。そういった点からいくとやはり、現に例えば市町村議会の議員さんであったり都道府県議会の議員さんであったり、こうした皆さん方とリンクをする。まあいわばインターンシップとも言えるのかもしれませんがね。実際に自分達の提案、こうしたものがどんなプロセスを経て政治として行政として活かされるのか。こうした点を実践教育として新たなテーマにしていく、おっしゃるとおりと思います。

また全国初となる、大変マスコミの皆さん方にも注目をいただいている、夜間中学校、しかも県立学校は徳島だけということで、しらさぎ中学校のあり方についてもお話をいただきました。ここは今様々な例えば不登校であったり、あるいは戦後あるいは戦中もそうなのかもしれませんが、なかなか教育を受けることができなかった。そういう中でもう一度、学びを、リカレントしてみたい。

また一方で、労働者の皆さん方、あるいは勤務者の皆さん方を日本の人口減少に伴い海外から入れていく。かつてはワーカーの方だけだったんですがそれでは長続きはしない。

やはりご家族ごと徳島に移り住んでいただこうと、ただそうなりますと、働く方は当然日本語はある程度学んでこられる。また子どもさん達は小学校、中学校でたちどころに日本語を覚えちゃう。取り残されるのが実はパートナーの方なんです。

このパートナーの方が、なかなか地域になじめず、そして場合によっては引きこもってしまう、それによって結局、他の皆さん方は日本に居続けたい、楽しい。でも家族としてはなかなか成り立たないということで結果母国に帰ってしまう。こうした事例が後を絶たないんです。

今回の県立夜間中学校、しらすぎ中学校におきましてはこうした皆さん方にも、学びの場として活用いただこうと。その意味では単なる日本語を覚えるだけでなく徳島の文化あるいは徳島のような歴史、徳島学、こうしたものも併せて学んでいただく。あるいは徳島が今どんどん進めている徳島ならではの教育、こうした点も学んでいただこうではないか。教育委員会としては大変意欲的なチャレンジをさせていただいているところであります。

ここは菅総理のほうから全国各地で徳島のような県立夜間中学校をはじめとする、多くは市町村でなされているところでありますが、全国各都道府県に最低1つは作って、既に国会で答弁もなされているところでありますので、こうした点、教育委員の皆様方にも様々ご提言いただき、お支えいただいて、日本のモデルとして、これからますます、しらすぎ中学校が発展をしていきますように、この点につきましてもぜひよろしくお願いを申し上げたいと存じます。

ということで教育委員の皆様方からは様々な前向きのご提言をいただいたところであり、教育委員会はもとよりのこと、我々といたしましてもしっかりと取り組みを進めさせていただければと思います。今日は本当に長時間リモートでご参加をいただきまして、ありがとうございました。これからもどうぞよろしくお願いいたします。

<福岡課長>

ありがとうございました。以上をもちまして、令和3年度第1回「徳島県総合教育会議」を閉会いたします。本日はどうもありがとうございました。

以上